

プロジェクト科目 議事録

2006 年 6 月 7 日提出

プロジェクト科目 テーマ名	
小学生のための能楽入門プログラムの開発と研究	
記録者氏名 E	学生 ID -
日時	2006 年 6 月 7 日 (水) 12:15 頃 ~ 13:15
場所	明德館 1階ラウンジ
議題	小学校訪問時の企画における反省点 (小学校側との認識の差) 事前学習のあり方
参加者	A, C, E, G, H
記録	
○ 小学校訪問で感じた問題点	
① 小学校の先生方との大きな認識の差を埋めるには	
⇒ 「先生方にも能を体感していただく」	
* 「お勉強」を期待している→科目担当者 T の企画による WS についての話にもでたが、座っておとなしく鑑賞することが大事だと思われる。	
* 大学生が教えると思っている→教育実習ではない。わたしたちは、能楽師と児童との間をとりもつのが仕事。ホンモノを見てもらうのが目的。	
* 先生方にも能に対する先入観がある→「座って、すべてを理解して鑑賞するもの」と思われている。気楽に鑑賞する意識をもってもらう必要がある。	
② 小学校のカリキュラム	
* 専門科目は担任の先生の授業ではないことが多い	
→ 個別に交渉を行う必要があり、時間をいただくのは難しい	
* 「ことばのじかん」という授業がある	
→ 活用させてもらえないか	
○ WS の前の事前学習について	
児童が絵を描くのに、どれほどの時間を要するか、実感としてわからない。参観をして様子を把握してからでは、扇作りを打診するのは時間的に難しいのでは？	
⇒ 小学校の先生がおっしゃっていたように、扇作りを WS の前段階に位置づける必要があるのか？ 〈「作りたい」という意欲を待つ〉 こともいいのではないだろうか。	
☆ 扇作りに替わる事前学習案	
<u>「ことばのじかん」を使って、謡の体験</u>	
* 詳しいことは次回講義に、企画書を持参してはかることとする。	